

スマトラ島沖地震・インド洋津波災害調査特別委員会について

東北大学大学院工学研究科
附属災害制御研究センター
今村文彦

はじめに

2004年12月26日にスマトラ島北西部沖で発生したM9.0に達する巨大地震が発生した。発生した津波による被害はアフリカ東海岸を含むインド洋沿岸のほぼ全域に及び、死者行方不明者は20万人を超す大惨事となった。

土木学会は、学会内に本年1月5日スマトラ島沖地震・インド洋津波災害調査特別委員会を設置した。以下が委員会の設置目的であるが、さらに、すでに現地調査されている今村文彦東北大学教授、草柳俊二高知工科大教授、藤間功司防衛大教授、あるいは都司嘉宜東大地震研教授などと情報の共有と調査内容の調整を図りながら、更に重点的に調査が必要な地域に調査団を派遣し、学術調査を行うこととした。

今回、一連の現地調査を整理し、今後の課題整理や方向議論のための場を設けた。

委員会の活動目的

- ①広域基礎データの収集(衛星データ, 津波画像, WEBサイトを活用して津波の遡上範囲, 高さ, 時刻等の被害記録を収集し, 分析の基礎資料とする.)
- ②アーカイブスの構築(津波, 被災等の資料や映像などを利用可能なシステムとして構築する. 資料収集はWEB等を活用し, 事前に使用が許諾されるものを対象とする.)
- ③現地調査(主として構造物の津波に対する耐久性, 避難場所としての有効性, 被害を軽減する方策等を探り, 復興計画に反映させるとともに, 我国の津波対策への参考とする.)
- ④国際ネットワーク形成((独)建築研究所, 国際津波情報センター, (独)防災科学技術研究所, 気象庁北西太平洋津波情報センター, 協定学協会, e-フレンド, 在日の外国人研究者)
- ⑤調査結果の公表・発表